



環境設定

1 導入

イラストを用いてお肉についての話をする事で自分達の知識や経験から、主体的な言語表現が生まれるようにする。

環境設定

2 お肉の話

初めは子ども達に焼いていない生の丸鶏を見せ、部位の話で自分の身体で説明する。
保育者からの問いかけでは断定的な言葉は最初は使わず「どんな色かな」「どんな形」「これは何かな」などの「問いかけ」と子ども達からの表現を待つ「間」を大切にを行う。



環境設定

3 変化の観察

クイズ形式で器具などの名前を問いていく事で言葉の育ちを促す。
今回は鶏肉の部位にも色々な種類があることを感じてもらうために、部位ごとで切り分ける。
調理に使う包丁やIHとフライパンに関して「触らないで」と伝えるのでなく包丁や熱源の危険性を一緒に考えていく。
調理前と調理後の変化を1人1人が感じられるように、フライパンに入った状態で子ども達に見せて周る。この際もう一度子ども達と熱源に触れるとどうなるかを一緒に考え、注意喚起を行う。



環境設定

4 共食

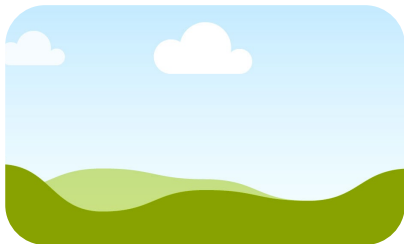
大人も子どもも関係なく、1人の人間としての食べた感想をお互いに問いかけ「どうだった？」ながら共食する。
味わうために、全ての種類を一齐に配るのでなく1つずつ品種ごとに配布する。
アンケートをとり、想像やイメージと違ったのか同じだったのかなと言語表現を促す。



環境設定

5 活動後

活動が終わった後にすぐ行うことで、興味や探究を維持できる。
掲示や絵本なども用意することで活動がより深まる。



環境設定